

JAあいおいの 「JA自己改革への取組・実践について」



JAあいおいでは、①農業者の所得増大②農業生産の拡大をめざし、自己改革をすすめています。その具体策として「地域農業支援強化」「地域に根ざしたJA」「地産地消強化」の実現に向けて取り組めます。

1 新農プラン1 (そば・黒豆・さつまいもの栽培)



休耕・遊休農地を活用して、そば・黒豆・さつまいもの栽培に取り組んでいます。野瀬地区では白いそばの花で地域の景観を美しく保全したり、10月には現地で「そば畑の花見会」を開催しています。佐方地区では大粒の丹波黒とさつまいもの試験栽培を開始し、黒大豆は枝豆として、さつまいもは品種による消費者の嗜好調査しながら販売を行っています。さつまいもについてはPTAや子ども会、自治会などに焼きいも機の貸し出しを行い消費拡大の研究を進めています。また、そばについては加工、店舗販売など6次産業化へ向けての研究も進めています。

2 新農プラン2 (トマト水耕施設栽培)



JAの農業経営事業への取り組みとして、ハウス施設栽培を活用した農業経営モデルの構築・実践をしています。収穫した各種トマトはJA直売所で販売し好評を得ています。さらに、新しい品種の試験栽培や、栽培データを蓄積し品質向上、収穫量アップに向けて取り組むことで将来的には次世代後継者や新規就農者の育成に努めています。

3 新農プラン3 (農産物直売所・ベジーズ館)



当JAの農産物直売所・ベジーズ館では安心・安全・新鮮・地産地消をキーワードに、畑で完熟させた新鮮な野菜を地域の人に味わってもらえるよう平成27年5月にオープンいたしました。今後、数年かけて拠点を増やし拡販していきます。販売グループメンバーの機能・技術強化を支援するため先進地視察研修会を毎年実施しています。

4 農作業受託部会の充実と発展 (稲作)



地域の農地保全、生産向上のため、また、後継者問題への当面の対応策として重要な役割を担い続けています。那波野地区では平成31年3月に農機庫を建設し個人では高額な農業機械をJAで充実させ、組合員・生産者のコスト削減を支援していきます。将来的にはこの受託部会をさらに発展させ、広域受託業務が実施できる営農組織のしくみを研究していきます。

5 農業所得アップ・ 生産拡大への取り組み



出荷農家ならびに出荷品目の拡大と地元にあった優良品種の作付け、マーケットインを意識した付加価値の高い品種を探索するため、先進地視察研修会を開催いたしました。

農業コストの低減に向けての取り組みでは、生産コストの中で高い割合を占める設備費用を削減支援するため農機の貸出(本体代のみ無料)に取り組んでいます。稲作においては色彩選別機の導入、農地保全や畑作では草刈機(フレールモア・スライドモア・ハンマーモア)や管理機、トラクター、噴霧器等の貸出を整備しました。また、生産者や地域農会には農機の購入資金支援として機械購入価格の40%を助成、稲作生産者には色彩選別機利用料の助成をしました。(※この助成制度は平成30年度末で総額が予算額に達したため終了しました。)

6 農・食・協同組合にかかる 地域住民への理解の醸成



野菜づくり講習会や野瀬地区での市民農園など農家のみならず市民に対しても農業の楽しさ、意義を発信しています。また、市内の小学校、幼稚園と提携し、栽培から収穫までの体験を通じて食農教育活動(アグリキッズ・学童農園)を実施しています。農業文化教育の取組として、大ちゃん大根の播種、収穫、そば打ち教室やそばの花祭りを実施しています。こうして地域の次世代、次々世代への発信も続けていきます。

JAあいおい自己改革プログラム取り組み結果のご報告



JAあいおいでは、農業者の所得増大などに向けた自己改革に取り組んでいます。
「JAあいおい 自己改革プログラム」の取り組み結果（平成31年3月末時点）を報告いたします。

1. 農業生産の維持・拡大

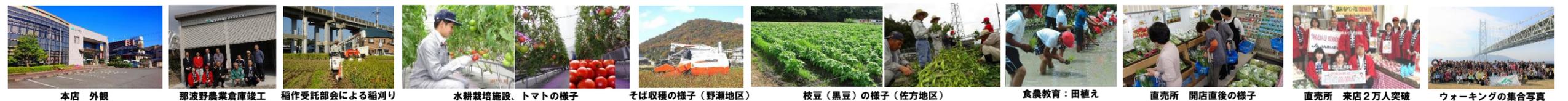
重点取り組み	平成30年度末目標値	平成31年3月末評価	平成30年度末実績値	取り組み状況	令和元年度目標																					
稲作受託業務による 農地保全と後継者対策 [畦畔の草刈・耕起・代掻き・田植え 防除・稲刈り・乾燥調整・水管理等]	受託面積 50,000㎡	○	計60,062㎡の受託を行いました。 <table border="1"> <tr><td>耕起</td><td>20筆</td><td>13,560㎡</td></tr> <tr><td>代掻き</td><td>30筆</td><td>21,600㎡</td></tr> <tr><td>田植え</td><td>37筆</td><td>28,230㎡</td></tr> <tr><td>防除</td><td>65筆</td><td>59,360㎡</td></tr> <tr><td>草刈</td><td>35筆</td><td>27,000㎡</td></tr> <tr><td>稲刈り</td><td>51筆</td><td>45,797㎡</td></tr> <tr><td>乾燥調整</td><td>65筆</td><td>60,062㎡</td></tr> </table>	耕起	20筆	13,560㎡	代掻き	30筆	21,600㎡	田植え	37筆	28,230㎡	防除	65筆	59,360㎡	草刈	35筆	27,000㎡	稲刈り	51筆	45,797㎡	乾燥調整	65筆	60,062㎡	<ul style="list-style-type: none"> 地域の農地保全、農業生産の維持・拡大の為、また高齢化による後継者問題への対応として、農地管理や育苗、代掻きから田植え、稲刈り、乾燥調整までの稲作米づくりの全工程の受託を行っております。 	受託面積 50,000㎡
耕起	20筆	13,560㎡																								
代掻き	30筆	21,600㎡																								
田植え	37筆	28,230㎡																								
防除	65筆	59,360㎡																								
草刈	35筆	27,000㎡																								
稲刈り	51筆	45,797㎡																								
乾燥調整	65筆	60,062㎡																								
モデル農業経営事業の提案 (トマト・そば・黒大豆)	野菜栽培 経営規模 2,000㎡ 販売高 1,000千円 そば 経営規模 45,000㎡ 販売高 440千円	△ △	野菜栽培 経営規模 2,000㎡ 販売高 413千円 そばの栽培 経営規模 45,000㎡ 販売高 206千円	<ul style="list-style-type: none"> 農業経営モデルとしてハウス施設によるトマトの栽培・販売を行い、新品種の試験栽培や栽培データを蓄積し、就農者へデータ提供による育成に努めております。 平成30年度より相生市西部の佐方地区で休耕農地拡大予防施策を拡大するとともに収穫期の作業軽減や人不足を解消するため新たな販売方法（ビック・ユア・オウン方式）のノウハウ取得を目指し枝豆（黒豆）の試験栽培を行い研究しています。 地域景観保全や休耕農地拡大予防、生産物拡大の為、休耕・遊休農地を活用し、そばの栽培を行っております。 そばの消費拡大、販路確保のため乾麺に加工し「ベジーズ」館で販売しています。 また、平成30年度よりそばの収穫量を確保するため、防獣対策として電気柵の試験設置し、350kg収穫しました。 	野菜 (トマト・じゃがいも・ さつまいも・枝豆(黒大豆)) 経営規模 2,000㎡ 販売高 1,000千円 そば 経営規模 30,000㎡ 販売高 500千円																					
その他 (補助金、助成等)		○	平成27年度から平成30年度の4年間で農業強化対策のため21,746,700円の農業関連補助金の申請を行いました。 当組合の農業強化対策の補助金は合計15,546,700円となりました。 <ul style="list-style-type: none"> 兵庫県等 902,700円 JAグループ(兵庫県連・共済連・中央会) 14,644,000円 農家組合員へ直接支援される補助金は合計で 6,200,000円となりました。 <ul style="list-style-type: none"> 兵庫県 3,200,000円 JAグループ(農林中金) 3,000,000円 	<ul style="list-style-type: none"> 取得した補助金を活用し、受託業務の乾燥調整工程で光センサー色選別機を導入し、消費者が求める良質の米作りに取り組んでいます。また、農機(フレールモア・管理機)を取得し、メンテナンス費用程度の利用料で農機の貸出しを行うことで小規模農家のコスト削減に取り組んでいます。 また、当組合の組合員農家が農業設備・農業機器を取得するために借り入れた貸入金利に対し、利子の助成制度を整備いたしました。 																						

2. 農業者の販売強化・所得増大

重点取り組み	平成30年度末目標値	平成31年3月末評価	平成30年度末実績値	取り組み状況	令和元年度目標
買取販売の実施 (米の買取・JA間連携)	買取販売高 550万円 うち米 650万円 うちJA間連携他 75万円	○	買取販売高 752万円 うち米 526万円 うちJA間連携他 226万円 米については、前半の雨不足、高温異常気象、収穫時期前の急激な低温気候などの異常気象に見舞われ作付け状況もよくなく1等米の割合が50%となりました。集荷量も前年を下回る484袋(30kg)となりました。買取価格については対前年対比で1袋あたり7.4%UPの大幅な価格引き上げを実現できました。	<ul style="list-style-type: none"> JAに出荷されたお米は全量買取し、保管料等生産者負担を軽減することにより、所得アップに努めております。 	買取販売高 790万円 うち米 540万円 うちJA間連携他 250万円
直売所出荷者の育成支援	栽培講習会の開催 年2回 視察研修会の開催 年1回	○	野菜栽培講習会の開催 年2回 視察研修会の開催 年1回(大阪・奈良)	<ul style="list-style-type: none"> 栽培講習会を開催し、効率の良い栽培方法やニーズのある農産物の情報を提供し、試作用に種の配付を行っております。 また、種苗会社や農業・肥料会社から外部講師を招き最先端の栽培方法などを紹介しています。 直売所の出荷者を対象に、生産物や商品の包装、販売の仕方など先端のノウハウを学ぶことを目的に先進の直売所を視察しました。 	栽培講習会の開催 年2回 視察研修会の開催 年1回
直売所受託販売高の増強	受託販売高 405万円	△	受託販売高 339万円 JAあいおいベジーズ館(農産物直売所)の好評もあり、対前年比で27%増となりました。	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年4月に「ベジーズ」販売出荷部会を設立し同年5月にJAあいおい「ベジーズ」館(農産物直売所)をオープンいたしました。 地産地消をキーワードに地元の安全・安心・新鮮な野菜を販売しております。地域情報誌に直売所の広告を載せ、販売高増加に努めております。 	受託販売高 340万円

3. 地域の活性化

重点取り組み	平成30年度末目標値	平成31年3月末評価	平成30年度末実績値	取り組み状況	令和元年度目標
地域ふれあい活動の活性化	食育教育 4回 ウォーキング 1回 男性料理教室 6回 スイーツ&クッキング 6回	○	食育教育 8回 ウォーキング 1回 男性料理教室 6回 スイーツ&クッキング 6回	<ul style="list-style-type: none"> 農業の楽しさ、意義の発信として児童に対し「食農教育活動」、利用者の外見と内面の若さを保ち、健康促進効果のある「ウォーキング」、農業文化教育の一環として「そば畑の花まつり」等開催しております。また、人とのつながりを楽しむコミュニケーションの場として、各種料理教室・ゆうあいのつどい等行っております。 	食育教育の実施 ウォーキングの開催 そば畑の花まつりの開催 各種料理教室の実施 ゆうあいのつどいの実施



本店 外観 那波野農業倉庫竣工 稲作受託部会による稲刈り 水耕栽培施設、トマトの様子 そば収穫の様子(野瀬地区) 枝豆(黒豆)の様子(佐方地区) 食農教育:田植え 直売所 開店直後の様子 直売所 来店2万人突破 ウォーキングの集合写真